

宇都宮のすばらしさを内外に発信

歴史と文化、情報発信、おもてなし。地域活性化に、いま必要なことは？

昨年の宇都宮城一部復元に象徴されるように、まちづくりのあり方が変わりつつあります。歴史や文化を掘り起こすことで、トータルに地域の活性化を行うやり方が注目されています。

いま必要な「まちづくり」とは、どんなものなのか。会議所などの活動の紹介と、歴史文化に関わり深い活動を行っているお2人の対談を通じて、皆様も一緒に考えてみてください。

宇都宮のファンをいかに増やすか

私たちの住む宇都宮市を外から見た時、どの程度魅力的なんでしょうか。地域の魅力づくりは、今後の地域活性化のために欠かせない要素ですが、それを測る基準はというと、どんなものがあるのか、ちよつと考えてしまいます。

ごく単純に考えれば「訪れる人の多い街は、何らかの魅力がある」ということになりそうです。観光なのかビジネスなのかはともかく、何がしかの理由で「魅力がなければ、来てもらえないからです」。

栃木県の調査によれば、宇都宮市の宇

100万人が1人2万円ずつ消費してくれるだけで、200億円(1)。大変大きな市場です。

さて、ビジネスにおいて重要なのは「リピーターづくり」「ファンづくり」。100万人を宇都宮のファンにすることができれば、地域活性化の大きな力になることは間違いありません。

そのために重要なのが「地域の魅力づくり」。また来なくなる魅力をいかに創り上げるか、ということなのです。

当所でも、「昨年からオリオンスクエアを中心に開催するようになったジャズフェスティバルや、従前より継続して開催している官の市など、多種多様な方法で魅力づくりを行ってきました。特に近年は、うつのみやの再発見など、歴史・文化の面からは宇都宮のすばらしさを内外へ発信することで、市民にも周知し、誇りを持ってもらいたいという想いで、取り組みを続けています。

「知識理解」「情報発信」「おもてなし」

これに関連する当所や市内団体による活動を、いくつかご紹介します。

「官のもの知り達人検定試験」(主催:官のもの知り達人検定実行委員会)は平成19年にスタートし、これまでに2回の検定を行っています。この検定の趣旨は「宇都宮に関する歴史や文化、自然、観光、暮らしなど様々な分野の知識を深めていた

だくための試験」であり、「宇都宮についての理解を深めていただき、身近な観光案内人として宇都宮を訪れる方を温かく迎える、宇都宮の魅力伝える『おもてなし力』の向上を図ることで、宇都宮の産業や観光の振興につなげていく」ことを目的としています(募集要項より)。

これまでに約400人以上が受験、349人の(達人)を生み出したこの検定は、今後も継続して行われ、歴史文化に対する理解を深める一助となるでしょう。

また、「おもてなし」は当所にとっても重要なキーワードです。まちづくり会議では、宇都宮市を訪れた方をいかにおもてなすのかの一助とするために、平成19年に「おもてなしBOOK」を発行、頒布。同時に当所青年部が、「おもてなしBOOK」を使って、市内の小中学校を訪問し、「おもてなし出前講座」を継続的に開催。おもてなしの心の普及に力を注いできました。この活動については、本誌掲載の青年部による活動リポートの連載などで、皆様はすでにご存知のことと思います。

また、宇都宮観光コンベンション協会では、平成18年から19年にかけて、半年ずつ計3期(各12回)の「おもてなしリーダー養成塾」を開催してきました。

これは「お客様の最大満足を目指し、地域・企業・店の繁栄を目指す実践的な指導」を掲げ、人間学から実践学、実技まで、さまざまな講義によって、地域活性化の要ともいえる「おもてなし」のリーダーを養成する講座です(平成19年度で終了)。講師にはラジオ、テレビでも活躍する

(株)日本ヒューマン経営研究所の大塚徹氏を迎え、約90人が学びました。

このように、「歴史文化の再発見」と「地域の情報発信」と「おもてなし」は、それぞれ密接に結びつき、「地域活性化」を成し遂げるのに欠かせないものです。

また、昨年の初代横綱・明石志賀之助石像建立や、今年に入つていよいよ始まった慈光寺の赤門再建など、市民レベルでの「再発見」「情報発信」「おもてなし」の動きも活発化しています。これらが有機的に連携することで、今後のまちづくりはますますおもしろく、盛り上がっていくものと思われま

都宮市観光入込客数(地域を訪れた人の数)は、平成17年には1360万人で、県全体の約18%を占めています。平成18年は1378万人で、同じく約18%。栃木県を訪れる人の2割弱が、宇都宮に来ていることになりました。

ちなみに観光客宿泊数は、平成17年が103万人で、18年は98万人。少々減少していますが、いずれにせよ100万人ほどが宿泊しているということになります。県全体では830~840万人程度ですので、1割強が宇都宮に宿泊しています。

あくまで目安です。単純に計算すると、

宮のもの知り達人検定

宇都宮に関するご当地検定試験「宮のもの知り達人検定試験」の内容は、餃子やカクテル、ジャズ、歴史や文化など100問。郷土宇都宮を理解するため、来訪者に宇都宮の魅力を紹介するため、家族、友人、知人と宇都宮について語り合うため、ぜひ受験してください。

今年8月24日(日)に検定試験を予定しています。

出題は現在市内各書店で発売中の公式テキストブックから80%、時事問題等その他の問題が20%となっています。80点以上が合格です。

【問合せ】
宇都宮商工会議所
63731311



宇都宮観光コンベンション協会

宇都宮の見る・食べる・遊ぶを紹介し、宇都宮にまた来たいと感じてもらえるような街づくりを企画立案している組織です。

また、学会や集会、スポーツ大会など、人が集まる催しを総称して「コンベンション」といいます。この「コンベンション」を宇都宮で開催してもらうために、基本的な部分(大会施設・宿泊・交通等)を紹介したり、開催に必要ないろいろな手伝いをしています。

宇都宮市中央3丁目1番4号
(栃木県産業会館2F)
☎ 6322445
☎ 6367421
<http://www.utsumonjya-cvb.org/>



宇都宮の文化と歴史を掘り起し、目に見える形に！

慈光寺赤門再建、明石志賀之助の石像建立： 宇都宮のまちづくりを熱く語る！

宇都宮のシンボル、赤門の再建

——慈光寺の赤門の再建が、いよいよ始まりましたね。
安藤 3月8日に吉田祥雄住職の下、上棟式と梵鐘撞初め式を行いました。秋に完成の予定です。

赤門は、江戸中期の1778年に建てられ、長く宇都宮市のシンボルの一つとして人々から愛されてきました。しかし残念ながら先の戦争の最中、昭和20年7月の宇都宮大空襲で焼失してしまいました。

慈光寺では、12年前から住職の発案で千燈明という催しをお盆と大晦日に行っています。これは檀家が力をあわせて、宇都宮市の活性化も兼ねて行っているのですが、これを手伝ってくれている若い人たちの中には、赤門通りがなぜそんな名前なのか、知らない人も多いのです。

その一方で、赤門の姿を記憶している方々は高齢化しています。そんな現状を何とかしなければという思いが、今回の再建につながりました。檀家筆頭総代を務めた亡き加治朋彦氏の熱意もありました。また、昨年3月に宇都宮城の一部が復元されましたが、これも赤門再建のきっかけになりました。

神社の鳥居が朱色なのは珍しくありませんが、寺院の山門が赤いのは、あまり例がありません。慈光寺の場合は、宇都宮城から見た場合、鬼門に当たる位置にあります。つまり、城の鬼門の護りとして赤く塗ることが許されたのではないのでしょうか。そう考えると、慈光寺や赤門が、城と密接なつながりのあることが分かります。せつかく城がよみがえったのですから、その護りもよみがえらせたいと考えたのです。

谷田部 赤は魔よけの色ですからね。そういう経緯を考えると、宇都宮市にも赤

べてみますと、どうやらさまざまな文献にも出ている。蒲生神社にも碑がある。この碑は以前は城址公園内にあったものが、移設されたそうです。

この碑には、多くの力士が詣でています。平成3年には、当時の横綱である千代の富士が、初代横綱に敬意を表して土俵入りまで奉納しています。この土俵は、まだ残っていますよ。

こうして調べていくうちに「宇都宮の誇りだから、目に見える形で市民にアピールしたい」という思いが、私たちの間で強くなりました。

安藤 どんなにいいことでも、形にしないと、なかなか分かっていただけませんか。

蒲生神社境内に建立した初代横綱明石志賀之助の石像



門再建をもっとバックアップして欲しいと感じます。
安藤 赤門は慈光寺だけでなく、宇都宮全体のシンボルだと思います。ですから再建されたらさまざまな行事を行いたいと思っています。特に地元の方、赤門通りの方々に参加して欲しい。千燈明も、そんな思いがあつて始めたのです。

不世出の初代横綱を石像で顕彰

——谷田部さんが代表を務める「歴史文化を伝承する市民の会」では、昨年4月に、江戸時代の力士で初代横綱と言われる明石志賀之助の石像を、蒲生神社境内に建てられましたね。

谷田部 数年前、経営者の仲間で会食をした時に「宇都宮で自慢できるものは何があるだろうか」という話になりました。餃子、カクテル、ジャズなどはすぐに出了たのですが、その他がなかなか難しい。もう少し違うものは出ないかと考えているうちに、明石志賀之助が宇都宮出身だという話が出ました。

それで「それは本当かな」といろいろ調べてみると、宇都宮市にも赤

安藤 そうですね。いつかは実現できるといいなと思います。

——谷田部さんの会では、他にもさまざまな活動をされているそうですね。

谷田部 石像を建立しておしまい、ではなく、そこからどんどん発展させていきたい。4月6日にはちびっこ相撲大会を開催しました。相撲大会は高校生以上は全国大会がありますが、小中学生対象の大会は、まだありません。ですから、今回の大会を足がかりとして、将来は全国大会を開催したいと考えています。

安藤 谷田部さんには慈光寺千燈明会の役員ということで、赤門再建の活動にもご協力いただいています。

谷田部 「歴史文化の伝承」が活動テーマですから、相撲だけにこだわっているわけではありません。他にも、百人一首（注…



上棟式が済んだ再建中の赤門

慈光寺総代・千燈明会会長
株式会社安藤設計
代表取締役社長
安藤 英夫氏
(宇都宮商工会議所議員)



小倉百人一首の成立には、宇都宮氏が深くかかわっているとされています。の全国大会開催など、いろいろな企画を考えています。

宇都宮には他に誇れる歴史・文化がたくさんあるのです。それを掘り起こして皆さんに知っていただくことで、街を盛り上げたいと思います。

安藤 本当は地元の人にいちばん積極的に参加して欲しいのですがね。宇都宮の人は、そういう点が難しいのです。

谷田部 少し無頓着すぎますね（笑）。
安藤 だから、形にして見せて、かつ、長く発信し続けていかなければ駄目。あまり大上段に構えず、継続していくことが重要だと思いますよ。

谷田部 それと、自分のジャンルに固まってしまう傾向にありますね。お互いに連絡を密にして横断的に連携して行動するとよいですね。

安藤 そうなんですすね。
谷田部 大晦日に、二荒山神社に詣でた後で、慈光寺で鐘をついて帰るカップルが増えています。ああいう姿を見ると、赤門ができたらもっと盛り上がる感じます。そういう場で、ジャズも餃子もカクテルも千燈明会の行事も一緒にやっていたら、赤門通りが宇都宮の中心になることだって夢ではありませぬ。

安藤 そうなるためには、会議所さんにもどんどん後援していただかないと（笑）。よろしくお願いします。

目に見える形にして、地元の人の参加を

——安藤さんにしても、谷田部さんにしても、ただ作るだけではなく、それを核としたまちづくりを考えておられますね。

安藤 慈光寺には、宇都宮でいちばん早く咲くと言われている桜があります。桜の時期には、ここで「桜ライブ」を開催し、皆さんを楽しませています。赤門ができれば、今まで以上にこうした催しをいろいろ行うことができるでしょう。

谷田部 赤門の前は、昔は広場だったそうですね。今は交番などがありますが、あれがまた広場にできると、いろいろな仕掛けが可能ですね。



歴史文化を伝承する市民の会代表
谷田部石材販売株式会社
取締役会長
谷田部 峻氏
(宇都宮商工会議所議員)